

合唱団ホームページアドレス <http://www.wiengifu.org>

# 音楽とは 横への感性なり!

3

月号

2018年3月1日  
編集・発行/  
ウィーン岐阜合唱団

## ウィーン岐阜合唱団創立 20 周年記念 夢★音楽パーティを終えて

ウィーン岐阜合唱団 団長 森島成享

岐阜グランドホテル“雪の間”を埋め尽くした 200名近い人々の顔を拝見しながら、10 周年を超える人々にお集まり頂き本当に良かったと思いました。いつもですとウィーン岐阜管弦楽団の中から 5~6 名の優秀な団員で演奏していただくのに今回は 14 名の編成で素晴らしい音楽をお聴かせしたいと、先生は最初から張り切ってみえました。

野田大臣や安藤先生からの祝電もうれしい限りでした。何よりも出席された団員やお客様の楽しそうな顔を見て本当に良かったとつくづく感じました。

当日のご挨拶でも申し上げましたが、1998年 2 月のニューイヤーコンサートに始まり、20回の夏の定期演奏会と19回の年末の第九演奏会を開催できたことは何にもまして素晴らしいことであり、8 回のヨーロッパ音楽友好の旅を行ない海外諸国との友好を図ることができましたが、それには団員の皆様の合唱団についての深い思いがあってこそ続けられたものであり、そういう団員の熱い思いに対し、深く感謝申し上げる

次第です。

皆様のこの熱い思いがどこから来たのかといえば、平光総監督の音楽に対する並々ならぬ思いがあればこそ皆さんがついてこられたのであり、また先生の熱意溢れるご指導と、伴和子先生、真由子先生、菅原拓馬先生の熱心なご指導の賜物と団員一同深く感謝申し上げる次第です。またこの 20 周年記念パーティを挙げるにあたって日夜ご努力いただいたスタッフの皆様本当に有難うございました。

この 20 年の歴史と思い出に浸りながら、皆様の胸にも色々な思いが去来したことと思います。当日お越しいただいたお客様方のお支え、ご協力があってウィーン岐阜合唱団が成り立っていることを肝に銘じ、今後とも更に頑張っていきたいと思っております。

これからは 30 周年に向けての出発です、皆さん心一つにして、団員による素晴らしい迫力ある美しい声が響き渡りますよう頑張りましょう!!

## ウィーン岐阜合唱団 創立 20 周年記念パーティに参加して

田丸且行先生から寄稿です

何という高揚感、幸福感、至福感!! 2日経った今でも心の奥底から込み上げ、打ち震えるものがある。音楽を愛し、人を愛し、仲間を愛する方々の集いがもたらし、また、積み上げてきた歴史がもたらすワンポイント通過点。参加者皆の共通する想いであろう。その中核たる平光保氏の心境はいかばかりであろう。ここまでに至るまでには様々な喜怒哀楽があった事であろう。だからこそ当事者たる方々は高揚、幸福、至福感にも増して満足感も満たされ、この組織に参画する自分の生き様にも自信と達成感をもたらす。個々人皆意を強くされた事であろう。

当日僕の強く受け取ったメッセージは色々あるが参加者の発散する人として高度なレベルを追い求めようとする方々が発散する空気である。これだけのレベルの方々が一同に会する。その事だけでもウィーン岐阜合唱団・管弦楽団の活動や向かう方向が正鵠を得たものである事を証明している。この活動が更に音楽愛好家リスナーや一般の方々をも巻き込んで大きなうねりとなる事でさらなる記念パーティを夢想、期待するものである。

今後はこの活動をサポートする応援団が形成され、更なる拡がりを紡いでいくことだろう。

# オペラ「人道の桜」 回想録

岐阜本部 テノール 竹中千尋

『楽しかった。今までの人生で一番楽しい経験でした。ありがとうございました。』公演二日目の打ち上げで主役の幸子を演じた新南田ゆりさんにお礼を言いました。新南田ゆりさんも『本当に……よかった。』って喜んでくれました。

オペラの舞台に立たせてもらって本当にウィーン岐阜には感謝です。以前、四日市のローカルスーパースターズという演劇集団の『三蔵法師が見た夢』というミュージカルを観た時、端役でいい役者がだめなら裏方でもいいので参加したいと思ったことを思い出しました。あの時の思いがかなう機会を与えられたような気がしました。今回はその夢の舞台に立てるのです。そして記事を書く機会をも与えてもらいましたので舞台裏の面白エピソード思い出して書きます。舞台観られた方はその裏側も少しのぞいてみて下さい。

オペラを制作するのに主要な人は、作者(脚本作詞)、作曲家、演出家、役者(主演者)、それに資金調達から役者・舞台の手配等すべてを統括するプロデューサー等ですが、舞台上では演出家が最強です。強い権限を持つと同時に面白い面白くないかはこの人にかかっていると私は思いました。このオペラの演出家は鳴海優一さん。主役の二人に次々と指示を出します。それを補佐する助手は根岸幸さん。彼女は小柄ですがよく働きます。岐阜の稽古で役者は主役の二人と演出家と演出家助手の四人で全てを演じます。根岸さんはどんな役でも本人になりきり次々とこなしていきいます。演出家の指示のメモを取ります。写真を撮ります。舞台装置をセットします。私たちは彼女をアトムと名付けました。舞台装置は2m四方高さ 20 cm程の台が舞台上を動き回ります。稽古の時は助手が押して移動させます。アトムの仕事です。アトムは稽古後半にはウィーン岐阜の団員を普通に～さんと呼んでました。名前を覚えるのも重要な仕事です。鳴海さんにアドバイスを、ダメ出しできるのは彼女だけです。実は彼女が最強です。

ただ突っ立っているだけのわが団員を演技指導するのは鳴海さん。素人相手に大変です。《ユダヤ人難民の群衆のシーン》では

「息をして息をして……まだ息をして……」「どーしても止まっちゃうね……」鳴海さんが嘆く。皆にプレッシャーと緊張が走る。「動きはこうとか……こうとか……って言うと皆同じになっちゃうね……こういう人がいてもいい……こういう人がいてもいいんだよ……ここからこう動いてこう……全員がこれ(鳴海さんの顔がひょっとこ)はだめネ！」皆笑い。「どんどんやってもらっていいですよ。やりすぎは注意します。」鳴海さんの熱血指導が続く。皆なるほどどうなずき真剣なまなざし。次回では少しずつ動きができて少しずつ様になってきた。わかってきたゾー。

10月に団員だけの歌の練習から始まって10月末には演出家作曲家主演の二人にアトムが来岐して最初の立ち稽古まだ団員の手には楽譜。「あれみんな暗譜してんじゃないの」やんわり鳴海プレッシャー舞台慣れはしていても動かない舞台と動かなければならない舞台の違いは相当なもの「みんな得意な合唱になっちゃってるね……」歌の指導は作曲家安藤由布樹さんの役割ですが演技の一環としての挿入歌指導は鳴海さん。安藤先生は最初の顔合わせの時「皆さん一緒に歌ってもらいますが、一人一人が主役のつもりで舞台上で演じてください。」という話をされました制作スタッフ陣の意は統一されて結束は固いようです。東京より先生達が来岐されての練習3回延べ6日、東京調布往復11時間バス日帰りでの東京組との合同練習1回、前日合同練習、ゲネプロを経ていよいよ岐阜初演を迎えました。それまでに人生初のドーラン塗り、女性陣はつけまつげも経験することとなりテンションは更に高まって初日公演を迎えたのでした。初日公演を無事済ませ私たちはそれなりに満足したのですが、鳴海さんからの呼び出し「敦賀のシーンに出た人は明日11時に舞台に集まってください。」どうやらダメ出しのようです。

「ウーン A さんどうしたの?」「ごめんなさい……」「連鎖反応で皆んなダメ。全部ダメになっちゃったね。とんからりの歌はラララだし…歌詞忘れちゃったの?」「ゴメンナサイ…」冷たい空気「シーーン」。で最初からやり直し動きの再確認。私も敦賀の漁師役で出てました。この集合は雰囲気ダメ出しと判っていたので「やっぱり漁師の踊りはダメだったか…」と後悔。「あれはやめてくれ!」冷たい言葉を覚悟していました一晚寝れませんでした。がダメ出しは違うところでした。そんなことが起きていたとは全然気が付きませんでした。「漁師はどうでした?」恐る恐る聞いてみました。「漁師はよくやっていた…それなりに笑い取ってた……」「そうですかハイ」アー…よかった。漁師の踊りは漁師役に決まった時「後ろで踊ってもいいですか?」「あぁいいよ」って了解取り付けて私が勝手に振り付けたものです。鳴海さんも自由にやらせてくれました。感謝です!!このダメ出しの張本人は公演二日目の昼食時、私達の楽屋にきて「昨日はゴメンナサイ」と言ってお菓子を持って謝りに来ました。何のことか分からなかった人もいます。

楽屋廻りといえば、主役のお二人(千畝役は女屋哲郎さん)の気使いは相当なもので初日前日には「本日より3日間大変お世話になりますどうぞよろしくお願い致します」と言葉が添えられたお菓子が一人一人に手渡して配られました。楽団員の名前と役名がそれぞれに記されていました。私たちのテンションもいやが上にも高まります。「皆さん頑張りましょう!」日本シリーズのベンチ裏さながらです。お二人の気使いについてももう少し書きます。最初にウィーンが岐阜公演に出演が決まった時、出演に対するお礼と円滑に稽古が進むように準備と心構えが丁寧に書かれた文章が楽団員あてに送られてきました。本番 21 日前の岐阜稽古の時には「体調に気を付けてください」と記されたのど飴数種が入った小袋が配られました。本番 1 週間前の東京稽古では「まだ寒いので体調に気を付けて元気に本番を迎えてください」と記されたホッカイロが配られました。そして本番の緞帳が上がる前には、主役お二人が舞台袖全員に「よろしくお願ひします」と言って握手をして廻ったあと舞台中央に向かわれました。気分は最高潮に達して幕が上がりました。こんなことが舞台裏では行われていました。観客の皆さんにはここから観て頂きました。皆さんに楽しんで頂けたとは思いますが自分たちも十分楽しんでいました。公演数日前にチケットは完売したとのことですが見田村さんのところに数枚残っていると聞き急遽お願いして追加入手しました。姉夫婦と叔母を招待し「泣けるよ」ってチケットを渡しました。公演後のお見送りタイムに客席から出てきた姉に「どうだった?」って聞いたら「泣けて泣けて」って目を真っ赤にしていました。義兄は「楽しんだ楽しんだ」叔母は「こんなことするなんて!」これだけで私にとっては大満足です。歌唱指導のウィーン岐阜の先生方、ご来場して頂き盛り上げて頂いた皆様、清流プラザの職員の方々多くの方に大変お世話になりました。いい経験をさせていただきました。ありがとうございました。

## 2018 ウィーン岐阜合唱団合宿

ウィーン岐阜合唱団恒例の合宿を開催します。

会場は、毎年好評のスズケングループ保養所コージュ高鷲です。自然に囲まれた環境にあり、温泉あり、素晴らしいグランドピアノ・ベーゼンドルファーを備えた宿泊施設です。

今年は4月の開催、遅い桜が楽しめるかも。

○日時 4月21日(土)~22日(日)

□集合 21日 13時 現地集合 □解散 22日 16時 現地解散予定

○会場 コージュ高鷲 郡上市高鷲町鷲見 48番地 1

○参加費 15000円程度(1泊3食、懇親会費込み)

○その他 2日目の午後に「ぞうれっしゃがやってきた」の園長役のソリスト井上博嗣さんも参加されます。

# 3~5月練習予定

練習時間は18:45~20:45です。(18:30には集合しましょう!!)

月日	岐阜	月日	大垣
3月1日(木)	長森コミュニティーセンター	3月2日(金)	大垣市南地区センター
3月8日(木)	長森コミュニティーセンター	3月9日(金)	大垣市南地区センター
3月15日(木)	長森コミュニティーセンター	3月16日(金)	大垣市南地区センター
3月22日(木)	長森コミュニティーセンター	3月23日(金)	大垣市南地区センター
3月29日(木)	長森コミュニティーセンター	3月30日(金)	大垣市南地区センター
4月5日(木)	長森コミュニティーセンター	4月6日(金)	大垣市南地区センター
4月12日(木)	長森コミュニティーセンター	4月13日(金)	大垣市南地区センター
4月19日(木) 岐阜・大垣 合同練習 長森コミュニティーセンター			
4月21日(土)~4月22日(日) 合宿 於: コージュ高鷲(詳しくは3ページ参照)			
4月26日(木)	長森コミュニティーセンター	4月27日(金)	大垣市南地区センター
5月10日(木)	長森コミュニティーセンター	5月11日(金)	大垣市南地区センター
5月18日(金) 岐阜・大垣 合同練習 瑞穂市(穂積)総合センター2F 多目的ホール			
5月24日(木)	長森コミュニティーセンター	5月25日(金)	大垣市南地区センター
5月31日(木)	長森コミュニティーセンター	6月1日(金)	大垣市南地区センター

## 眞智子さんの魔法 アルト 可知 久美子

私の人生設計(などと、たいした設計はありませんが・・・)には、合唱の「が」の字も考えたことがありませんでした。そう、あの日までは。昨年の6月、前の職場の上司である藤田眞智子さんと、約2年ぶりにお会いする機会がありました。私には、これといった趣味がなく、職場と家の往復に物足りなさを感じていました。久しぶりの会話の中、藤田さんから、7月末のウィーン岐阜合唱団の演奏会に誘われました。また、「入団したウィーン岐阜合唱団はとて面白いばかりで楽しいから、一度見学に来なさい」と、勧められ(半強制的)、その日を約束して別れました。

初めての見学の際、平光先生よりDVDを頂き早車の中で見てみました。先生の表情豊かでおちゃめな(失礼)指揮に目を奪われ運転できなかったのが、自宅に帰って再度見直しました。(先生の流し目 最高でした!)一度の見学が二度になり、知らないうちに(?)8月には入団していました。その後は、「あなた、伴先生のレッスンはどうする?」と、眞智子さんから聞かれると、当直明けで疲れていたが、「はい。行きます」と、従順に従ってしまう、わ・た・し。まるで、眞智子さんの魔法にかかったかのよう

に、一宮の伴先生の自宅まで第九の個人レッスンに通いました。本当に熱心に指導していただきました。(伴先生のレッスンがなければ、初舞台は踏めませんでした)また、合唱団の方々は、慣れない私に声をかけてくださり、色んな事を教えてくださいました。

平光先生は、「ハイ、零年生、歌ってみて!」と容赦なく厳しいレッスン。(汗)仕事で疲れていても知らないうちに練習に向かい、元気を戴き、癒されて岐路に着きます。これも、眞智子さんの魔法の効果でしょうか?

昨年末、初舞台を踏みました。ウィーン岐阜管弦楽団の生演奏に鳥肌が立ちました。こんな素晴らしい環境の中で歌っている自分が信じられないような、ひと時でした。

眞智子さんの魔法の世界に引き込まれて数か月、暗譜することに精一杯の私ですが、これからも素晴らしい先生方と団員の方々に囲まれ楽しい時間を過ごしていきたいと思っております。

どうか、よろしくお願ひいたします。  
眞智子さんの魔法がずっと解けませんように。

### 編集部からのお願い

原稿の投稿お願ひいたします。特に、新しく入られました団員さん。自己prでもなんでもかまいません。

編集委員までご連絡ください。

Email: printshiraki@yahoo.co.jp TEL058-231-4700 FAX058-231-4700 (白木まで)